

AEDの使用

ほけせん便り182号
保健管理センター
学校医 山本 勇
2018年7月

心臓が何らかの理由により停止する場合、心臓が細かくふるえる心室細動という不整脈の状態から起こります。この状態より心臓を元の状態に戻すには、少しでも早く電気ショックを行う必要があります。突然倒れてから電気ショックが1分遅れるごとに救命率は約10%ずつ下がるといわれています。一般市民がAEDを使用することで、救命率は2倍となるといわれています(早く対応するため)。心停止からの救命には、少しでも早く他の人の援助を求め、AEDを取り寄せるとともに、絶え間ない胸骨圧迫を行うことが必要です。2004年7月より一般市民が救命の現場でAEDを使用することができるようになりました。AEDは音声ガイドに従うことで使用することはできますが、心肺蘇生を含めた講習会を受講されることがすすめられています(日本救急医学会より)。

AEDの使い方

- 1 聞こえますか?

意識があるかどうか確かめる。
- 2 救急車を呼ぶ。
同時にAEDを取りに行く。
- 3 呼吸?

呼吸をしているかどうか確かめる。
- 4 AEDを取りに行っている間にも、
胸骨圧迫をする。
- 5 AEDが届いたら、胸に電極をつける。
(電源を入れる必要があるものと
そうでないものがある)
- 6 電気ショックが必要であると指示
が出たら、ボタンを押す。このとき
感電しないよう体に触れない。



各地の日本赤十字社、各消防署で講習会が実施されています。インターネットにより検索し、参加しやすいところを探してみてください。